

曲目解説

●J. S. バッハ：ヴィオラ・ダ・ガンバ・ソナタ 第1番 BWV 1027

ヴィオラ・ダ・ガンバ：この場合のヴィオラは擦弦楽器（弓で弦を擦って音を出す楽器）の総称。ガンバは“脚”のこと。そこでヴィオラ・ダ・ガンバは“脚のヴィオラ”となり、脚で支えるヴィオラを意味します。普通に腕で支える現在のヴァイオリン族はヴィオラ・ダ・ブラッチョ（腕のヴィオラ）と呼ばれていました。ヴィオラ・ダ・ガンバはバッハの頃には盛んに用いられていました。ソプラノ、バスなどの大きさの違いがあり、バスが最も良く用いられていました。バスの大きさと音域は現在のチェロとほぼ同じです。

チェロとの違い：チェロの弦は4本、ヴィオラ・ダ・ガンバは6～7本、チェロにはあるエンドピンが無いので楽器を脚で挟んで支える必要があります。

ヴァイオリン族に比べて音量が小さかったため、18世紀末には廃れてしまいました。

バッハ（1685－1750）のヴィオラ・ダ・ガンバ・ソナタは全3曲あり、1717年から1723年の間に作曲されました。

第1楽章	Adagio	ト長調	12／8拍子
第2楽章	Allegro ma non tanto	ト長調	3／4拍子
第3楽章	Andante	ホ短調	4／4拍子
第4楽章	Allegro moderato	ト長調	2／2拍子
第2, 4楽章はフーガです。			演奏時間 約14分

なお、バッハの“2つのフルートと通奏低音のためのソナタ BWV 1039”は、この曲とまったく同じ曲です。

●フォーレ：チェロ・ソナタ 第2番 ト短調 Op. 117

フォーレ（Gabriel Urbain Fauré 1845－1922）はフランスの作曲家。

歌曲「夢のあとに」が際立って有名で様々な編曲で演奏されています。



チェロ・ソナタは2曲あり、第2番は最晩年の1921年の作曲です。

第1楽章	Allegro	ト短調	3／4拍子
第2楽章	Andante	ハ短調	4／4拍子
1921年5月に開催されたナポレオン没後100年記念式典のためにフランス政府から委嘱されてフォーレが作曲した『葬送歌』の編曲。			
第3楽章	Allgro vivo	ト短調	2／4拍子

演奏時間 約20分

ヴィオラ・ダ・ガンバ



チェロ



エンドピン

●ベートーヴェン：チェロ・ソナタ 第5番 ニ長調 Op102-2

ベートーヴェン（1770-1827）のチェロ・ソナタは全5曲。第5番は1815年の作品です。

第1楽章 Allegro con brio ニ長調 4/4拍子

第2楽章 Adagio ニ短調 2/4拍子

第3楽章 Allegro fugato ニ長調 3/4拍子

第2楽章から休みなしですぐに始まります。

チェロで奏される次の主題によるフーガです。



演奏時間 約25分

●ブラームス：ヴァイオリン・ソナタ 第1番 ト長調

「雨の歌」 Op. 78 (チェロとピアノ編曲版)

ブラームス（1833-1897）の「雨の歌」（第3楽章の旋律がブラームスの歌曲「雨の歌」から取られているため、このように呼ばれています）はヴァイオリン・ソナタとして大変有名な曲です。1879年作曲。

この曲は作曲された当時から人気が高く、チェロでも弾きたいとの声にこたえてブラームス自身がチェロ用に編曲しています。その際、チェロにふさわしい調性のニ長調へ移調しています。ほかに、同時代のドイツの作曲家パウル・クレンゲル（1854-1935）によるニ長調での編曲があり、ブラームスの生前に出版されています。このクレンゲルによる編曲での演奏が最も多いようです。

しかし、今回はヴァイオリンの楽譜そのまま原曲のト長調での演奏を行うとのことです。チェロにとってはニ長調よりも高音域の使用が多くなり、演奏難度は上がっていると思われる。

第1楽章 Vivace ma non troppo ト長調 6/4拍子

冒頭の親しみやすい旋律



第2楽章 Adagio 変ホ長調 2/4拍子

第3楽章 Allegro molto moderato ト短調 4/4拍子

原曲の歌曲「雨の歌」の冒頭部分



演奏時間 約27分